

Q：算数の授業で、「具体物」を使って指導するのはなぜでしょうか。その効果や指導上の留意点について教えてください。【1年】

A：小学校低学年で「具体物」を使って指導することで、いろいろな考え方で問題を解く力が養われます。

（意義）

算数科では、いろいろな考え方で問題を解く力を養うことが大切であり、これが数学的な思考につながります。このため、「物」「図」「言葉」「計算」「式」で表現することが必要です。

「具体物」を使って考えさせることは、こうした思考の原点にあたりますから、算数の学習の導入期には、とても有効な指導方法の一つといえるのです。

（効果）

- ① 問題設定の場面状況をより正しく理解できる。
- ② 具体物を実際に操作することから、児童自ら解決方法を生み出すことができる。
- ③ 事象、数や量の確認や比較・検討が容易になる。
- ④ 具体物を操作する視覚情報が、他の児童の理解に役立つ。
- ⑤ 児童の興味関心を高め、生活に生かすための経験となる。



（指導上の配慮事項）

- ① 操作しやすい環境（室内の広さ・机上の整理）を用意する。
- ② 説明（目的・活動内容・安全な使い方など）を終わらせてから、具体物を配る。
- ③ 具体物を使った活動中に話をするときには、具体物は机の上に置き、なおかつ手は膝の上におくことなどのきまりを事前に決めて約束する。
- ④ 操作時間を終えて、授業に必要ななくなれば回収する。
- ⑤ 児童が説明で使用するなら、説明をする児童だけにわたす。
- ⑥ 単元の導入時に具体物を使ったら、次時からは、半具体物に変えて、その後は図や言葉による表現にとどめるようにする。
- ⑦ 学級の児童の実態に合わせて用意する。

アドバイス

○数学的な思考を発展させるために

「具体物」だけで活動するのではなく、具体→抽象→具体→抽象→・・・と、具体物を使って行う思考と、頭の中だけで行う思考が、交互に繰り返される学習過程を組みながら、学習内容の理解がより深まり、楽しくわかる算数になっていくように工夫してください。